

KYB

Our Precision, Your Advantage

環境・社会報告書

2018



トップメッセージ

はじめに

KYBは1935年の創立以来、振動・パワー制御技術を核に、さまざまな製品を提供し、総合油圧機器メーカーとしてグローバルで成長を続けてまいりました。これもひとえに、ステークホルダーの皆様の多大なるご理解とご協力のたまものと心より感謝申し上げます。

2017中期計画の2年目にあたる今年度は、昨年の課題を解決しつつ、さらなる成長に向けて飛躍する年です。KYBは今一度モノづくりの原点に立ち返り、飛躍に向けた強固な足場づくりを進めてまいります。これからも皆様の変わらぬご支援をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017年度を振り返って

2017中期計画の初年度にあたる2017年度のKYBグループを振り返りますと、中国市場の回復、米国や新興国経済の堅調な推移に支えられ、連結売上高は期首目標3,569億円を上回る3,923億円、経常利益についても計画値を上回る見込みです。また積極的な受注活

動や、革新的製造ラインの構築などを通じて将来の成長に向けた取り組みも加速させました。その一方で、生産能力の逼迫や、高止まりする固定費など解決すべき課題も多く残されています。

2018年度は前年度に積み残した課題の着実な解決を図りつつ、激変する外部環境にも柔軟に即応できる経営体制と収益基盤の構築を着々と進め、中期計画達成に向けて従業員一丸となって取り組んでまいります。

KYBグループの社会・環境への取り組み

2017年度、KYBグループでは、労働災害、品質問題など、決してあってはならない事案が発生し、ステークホルダーの皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけ致しましたことを心よりお詫び申し上げます。これらの反省を踏まえ、信頼回復に向けた安全と品質に対する取り組みをより一層強化してまいります。安全面では、「安全は何よりも優先する」の考えを反映した組織再編を実施したほか、品質面では、「品質は経営の基盤」との考えに基づき「品質経営」を宣言し、Bad News Firstの取り

油圧技術を核に振動制御、 パワー制御技術、システム 豊かな社会づくりに貢献し

KYB株式会社
代表取締役社長執行役員

中島康輔

組みをスタートさせました。社外においても、安全や品質という日本のモノづくりの信頼の根幹を揺るがす事件が相次いでいます。KYBグループはこれら社内外の事例を通じて、会社存続の基盤は社会からの信頼にあることを再認識し、従業員一人ひとりの意識改革を通じた健全で誠実な企業体質づくりを推進してまいります。

自然環境の保護に関しては、KYBグループは「エネルギー・廃棄物の最小化を目指した工場づくり」を掲げ、エネルギーの部分共有に向けた環境整備やエネルギーの見える化、廃棄物の減量と再資源化の促進などの取り組みを進めております。

KYBグループの社会・環境への取り組みを、本報告書を通じてご理解頂き、より多くのステークホルダーの皆様から引き続きご支援頂ければ幸いです。また、本書に関する感想のみならず、KYBグループに対する忌憚のないご意見をお寄せください。

化技術を融合させ、
ていきます。

Contents

- 2 トップメッセージ／目次
- 4 KYBグループの目指す姿
- 6 KYBグループ概要
- 8 こんなところにKYB
- 10 2017年度活動ハイライト

環境報告

- 14 **環境マネジメント**
 - 環境基本方針
 - 環境保全目標
 - 化学物質の管理
- 16 **環境負荷の低減活動**
 - 生産拠点活動

社会性報告

- 18 **お客様とともに**
 - お客様満足度向上の取り組み
- 20 **お取引先様とともに**
 - パートナーシップの構築
- 21 **地域社会とともに**
 - 社会支援活動
- 24 **従業員とともに**
 - 人財の活用と職場環境づくり
 - 人財育成と技術力向上
 - 従業員コミュニケーション
- 27 **安全で働きやすい職場づくり**
 - 労働安全衛生

経営マネジメント報告

- 28 **経営マネジメント**
 - コーポレート・ガバナンス
- 29 **内部統制／コンプライアンス**
- 30 **環境データ編**
 - 編集方針

Our Precision, Your Advantage

企業の社会的責任がますます重要視される中、KYBグループではステークホルダーの皆様の満足を得られる企業グループとなることを目指し、経営理念の下、私たち一人ひとりが企業の責任を自覚し、法令等を順守し行動に結び付け、信頼される企業であり続けるために企業価値向上を図っていきます。

ステークホルダーの皆様との関係

経営理念

人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、
社会に貢献するKYBグループ

- 1.高い目標に挑戦し、より活気あふれる企業風土を築きます。
- 2.優しさや誠実さを保ち、自然を愛し環境を大切にします。
- 3.常に独創性を追い求め、
お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献します。

ビジョン

人財育成

方針や戦略を深く理解し、情熱を持って目標を完遂できる人財を育成する。

技術・商品開発

世界のお客様が感動し、安心し、そして信頼される商品を提供する。

モノづくり

お客様が満足する商品をつくる喜びと躍動感にあふれ、同時に現場主義に徹した緊張感のある工場にする。

マネジメント

企業の社会的責任を常に自覚し、効率の良いグループ経営を行う。



行動指針

- | | | | |
|--------------|-----------------------|----------------------|---------------------------|
| (1) 企業倫理 | (8) 最適品質の追求 | (15) 業界団体等、諸団体の活動参加 | (22) 社会貢献 |
| (2) 法令遵守 | (9) ステークホルダーとの関係 | (16) 社会に脅威を与える勢力との決別 | (23) 自然環境の保護 |
| (3) 人権の尊重 | (10) お客様(カスタマー)との取引 | (17) 適正な会計・決算処理 | (24) 安全衛生 |
| (4) 労働者権利の尊重 | (11) お取引先(サプライヤー)との取引 | (18) 情報開示 | (25) 働きやすい環境づくり |
| (5) 会社資産の尊重 | (12) サプライチェーン | (19) インサイダー取引の禁止 | (26) 教育・能力開発による
現場力の向上 |
| (6) 知的財産の保護 | (13) 新技術の追求 | (20) 企業秘密の保持 | |
| (7) お客様のために | (14) 安全な製品の提供 | (21) 個人情報の保護 | |



Value
心地よい暮らしを
導く技術

Vision
モノづくりが
人々の笑顔に
つながる世の中

KYBの目指す姿

人々の暮らしを
安心・安全・快適にする技術や製品を提供し、
社会に貢献するKYBグループ

Mission
一歩先の
モノづくり

KYBグループの社会的責任

KYBグループでは事業活動の中で常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献することを目指しています。

当社では経営理念とビジョンに基づいたCSR活動を各部署の年度実施項目に掲げ実践しています。そしてその行動をチェックして改善改新のサイクルを継続して実践しています。

従業員は当社の行動指針を携行しており、CSR(企業の社会的責任)の重要性の認識を深めています。

Vision

KYBブランドが実現したい世界
モノづくりが人々の笑顔につながる世の中

KYBが目指すのは、モノづくりのよこびが社会の発展を支え、人々の笑顔につながっていく、そんな世の中です。

Mission

KYBブランドが果たすべき使命
一歩先のモノづくり

KYBは、これまで培われてきた確かな技術力を生かして、お客様や市場に価値ある提案のできる企業であり続けます。新しい価値やかつてない満足をお得意先様に提供していくために、自らの力で、一歩先に進んだモノづくりを実践していきます。

Value

KYBブランドがお届けする価値
心地よい暮らしを導く技術

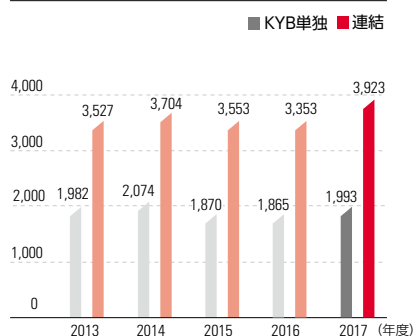
感覚的価値：心地よい暮らし、モノづくりのよこび
機能的価値：確かな品質
KYBがエンドユーザーに約束する価値。それは、独創的な技術と真摯な製品開発がもたらすワンステージ上の「心地よい暮らし」です。
KYBがお得意先様に約束する価値。それは、エンドユーザーまでも「お得意先様」と考えることから生み出される「確かな品質」です。
KYBが従業員に約束する価値。それは、一人ひとりが世の中を変えていくことを実感できる「モノづくりのよこび」です。

KYBグループ概要

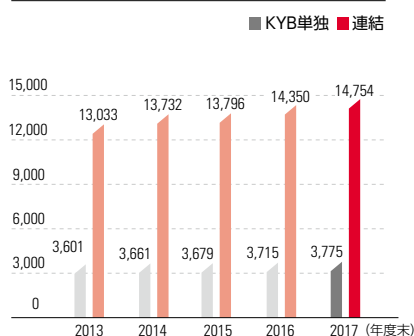
会社概要

社名	KYB株式会社	工場	熊谷工場、相模工場、岐阜北工場、 岐阜南工場、岐阜東工場
創業	1919年(大正8年)11月19日(萱場発明研究所)	研究・開発センター	基盤技術研究所、生産技術研究所 開発実験センター、工機センター、電子技術センター
創立	1935年(昭和10年)3月10日(株式会社萱場製作所)	従業員	連結：14,754名(2018年3月末現在) 単独：3,775名(2018年3月末現在)
設立	1948年(昭和23年)11月25日(萱場工業株式会社)		
本社	東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル		
代表者	代表取締役社長執行役員 中島 康輔		
資本金	276億4,760万円(2018年3月末現在)		

売上高の推移 (億円)



従業員数の推移 (名)

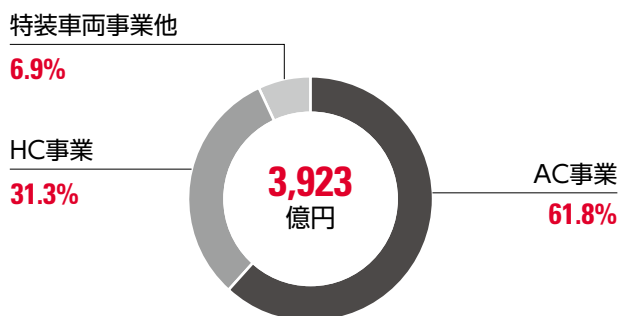


主な事業内容

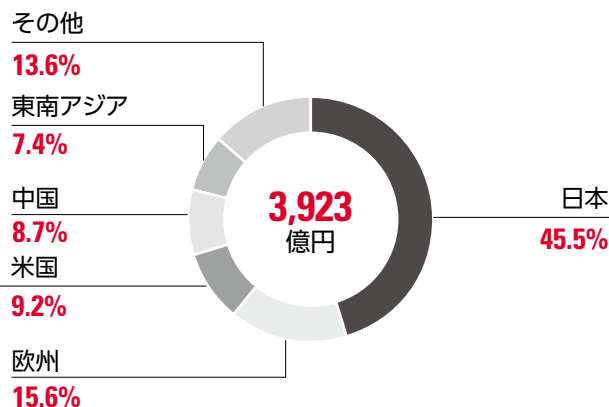
AC(オートモーティブコンポーネツ)事業	ショックアブソーバ、サスペンションシステム、パワーステアリング、ベーンポンプ、フロントフォーク、オイルクッションユニット、ステイダンパ、フリーロック
HC(ハイドロリックコンポーネツ)事業	シリンダ、バルブ、鉄道車両用オイルダンパ、衝突用緩衝器、ポンプ、モータ
特装車両事業、航空機器事業 システム製品および電子機器等	コンクリートミキサ車、粉粒体運搬車、特殊機能車、航空機用離着陸装置、同操舵装置・同制御装置・同緊急装置、シミュレータ、油圧システム、舞台機構、艦艇機器、トンネル掘削機、環境機器、免制震装置、電子機器

※ [AC事業]…「オートモーティブコンポーネツ事業」の略称 [HC事業]…「ハイドロリックコンポーネツ事業」の略称

2017年度事業別売上高の構成(連結)



2017年度地域別売上高の構成(連結)



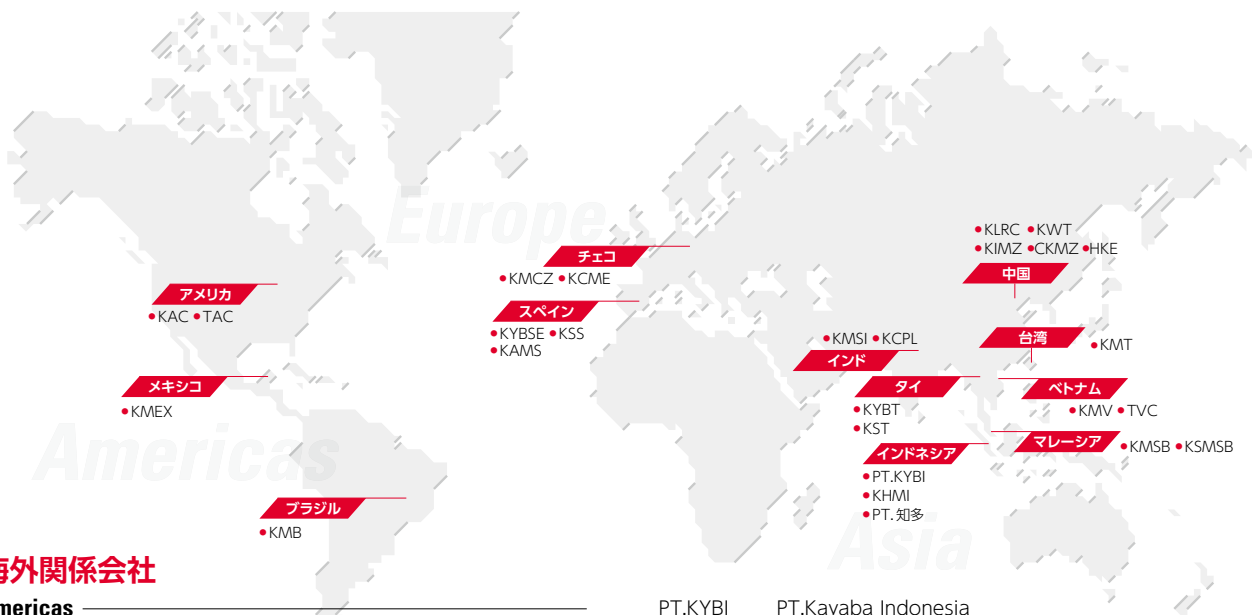
※ 記載されている売上高および対象範囲の詳細は、有価証券報告書をご参照ください。

国内関係会社

カヤバシステムマシナリー株式会社(KSM)
 KYBトロンデュール株式会社
 KYB-YS株式会社
 KYB金山株式会社
 KYBモーターサイクルサスペンション株式会社(KMS)
 株式会社東和製作所
 株式会社タカコ



KYBグループ生産拠点



海外関係会社

Americas

KAC KYB Americas Corporation
 TAC Takako America Co., Inc.
 KMEX KYB Mexico S.A.de C.V.
 KMB KYB-Mando do Brasil Fabricante de Autopeças S.A.

Asia

KIMZ 凱迺必機械工業(鎮江)有限公司
 KWT 無錫凱迺必拓普減震器有限公司
 KLRC 常州朗銳凱迺必減振技術有限公司
 CKMZ 知多彈簧工業(鎮江)有限公司
 HKE 湖北恒凱轎汽車電動轉向系統有限公司
 KMT 永華機械工業股份有限公司
 KST KYB Steering (Thailand) Co., Ltd.
 KYBT KYB (Thailand) Co.,Ltd.
 KHMI PT.KYB Hydraulics Manufacturing Indonesia

PT.KYBI PT.Kayaba Indonesia
 PT.知多 PT.Chita Indonesia
 KMV KYB Manufacturing Vietnam Co., Ltd.
 TVC Takako Vietnam Co., Ltd.
 KMSB KYB-UMW Malaysia Sdn.Bhd.
 KSMSB KYB-UMW Steering Malaysia Sdn.Bhd.
 KMSI KYB Motorcycle Suspension India Pvt.Ltd.
 KCPL KYB-Conmat Pvt.Ltd.

Europe

KYBSE KYB Suspensions Europe, S.A.U.
 KSS KYB Steering Spain,S.A.U.
 KAMS KYB Advanced Manufacturing Spain, S.A.U.
 KMCZ KYB Manufacturing Czech s.r.o.
 KCME KYB CHITA Manufacturing Europe, s.r.o.

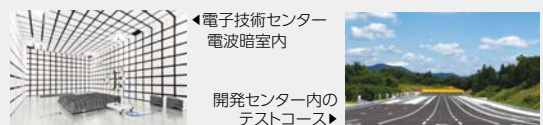
沿革

- 1919 萱場発明研究所を開設
- 1927 萱場製作所を創業
- 1935 (株)萱場製作所を創立
- 1948 萱場工業(株)を設立
- 1959 東京証券取引所に株式上場
- 1981 生産方式の呼称をKPSIに統一
- 1985 商号をカヤバ工業(株)に変更
- 1992 環境安全委員会を設置
- 1993 第1回全社スポーツ・文化交流大会を開催
- 1998 ISO9001の認証をKYB全工場が取得



創業当時の萱場製作所

- 1999 企業行動指針を制定
- 2001 ISO14001の認証をKYB全工場が取得
- 2005 新経営理念・経営ビジョン制定
KYBを通称社名に採用
- 2008 第1回ロボットコンテストを開催
- 2011 開発実験センター開設・テストコース稼働
- 2015 商号をKYB(株)に変更



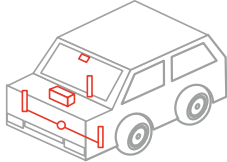
電子技術センター
電波暗室内

開発センター内の
テストコース

こんなところにKYB

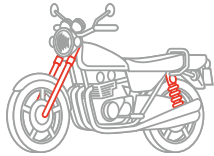
多くの「モノづくり」を支えるKYBの製品。それらは人々の当たり前の毎日を支え、安全・快適を提供しています。さまざまな場所で活用されているKYB製品をご紹介します。

1 自動車



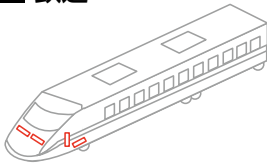
家族との快適なドライブ、過酷な条件を強いられるモータースポーツのシーン。全ての人を満足させるドライブバビリティを追求する自動車用機器

2 二輪車



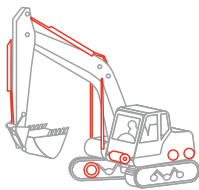
速さと安全性を極めたレースの中で磨かれた技術で、常に最高レベルの走行安定性を追求し、高い運動性能を実現する二輪車用機器

3 鉄道



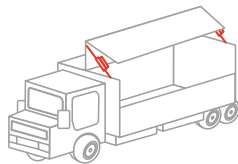
カーブ走行、対向車両とのすれ違いやトンネル突入時の風圧による横揺れを抑え、高速走行時における快適さを実現させる鉄道用機器

4 建設機械



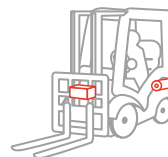
過酷な状況で使用される建設現場でも活躍する建設機械用機器

5 産業機械



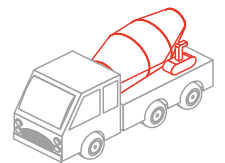
トラックなどの各種開閉装置を始め、様々な工場やオフィス・住宅の環境改善として使用されている産業機械用機器

6 産業車両



フォークリフトなどの産業用車両にもKYBの油圧技術が力を発揮。作業の効率化をパワフルにサポートする産業車両用機器

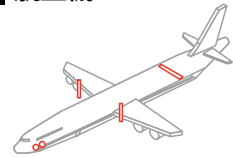
7 特装車両



国内最大シェアを持つコンクリートミキサ車など快適な生活環境を支える特装車両



14 航空機



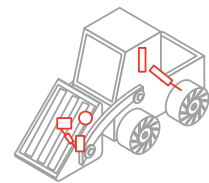
高い信頼性が要求される航空・宇宙技術分野で、操縦、降着、油圧・空気圧などに関して幅広く提供する航空機用機器

13 スポーツ・環境・福祉



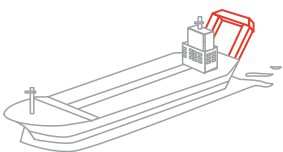
KYBのコア技術を生かしてスポーツや環境、福祉製品を開発

12 農業機械



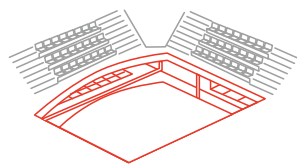
快適な農作業のために省エネ化、コンパクト化を実現した農業機械用機器

8 船舶



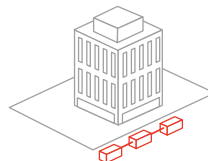
海底探索機や母船、輸送、補給、救助などKYBの油圧技術、張力制御技術が海上での快適な作業を支えています

9 建物・舞台装置



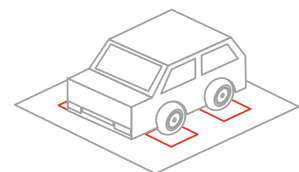
つり物や音響反射板などの、舞台における演出空間をKYBの技術が支えています

10 免震・制震



KYB独自の油圧技術を生かした免震および制震用のダンパのシェアは国内トップ。お客様との協働を基本とする徹底したマーケットインの思想の下、安全性を守ります

11 試験装置



各種シミュレータで、部品や製品の耐久性、性能の確認に使用される試験装置用製品

2017 年度活動ハイライト

振動やパワーの制御技術に加え、「システム技術」「電子技術」を融合し、さまざまな分野のお客様の幅広いニーズにお応えします。

今回のハイライトでは、モータースポーツ部の新設に加え、環境・安全に配慮した製品を紹介します。

モータースポーツ部の新設



WRX「EKS」レース車両



Moto2クラス「TECH3 Racing Team」レース車両

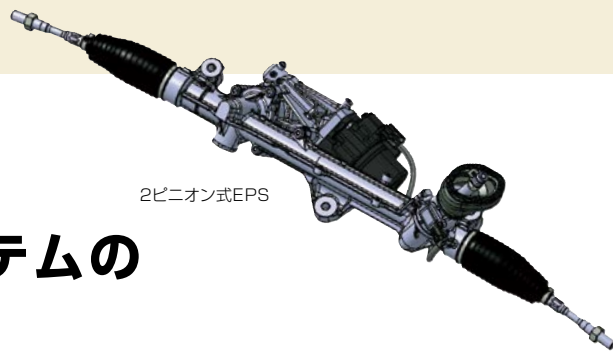
モータースポーツ活動の一層の強化を図るため、2017年4月1日付でモータースポーツ部を新設しました。すでに国際的レース等で活躍している四輪ショックアブソーバステアリング、二輪サスペンションの活動を集約し、世界のトップカテゴリーである世界ラリークロス選手権(WRX)・世界耐久選手権(WEC)・ロードレース世界選手権(MotoGP)への参戦を目指し、製品供給・技術サポートを行っています。2017年6月、WRXに参戦している「EKS」とスポンサー契約を締結しました。この活動を通じて、従来製品の軽量化を進め、環境に貢献する製品開発力、技術力の向上に努めています。



WRX 参戦「EKS」とのスポンサー契約調印式

SUV向け 高出力ステアリングシステムの 量産化により社会に貢献

2ピニオン式EPS



SUVは、一般的にセダンに比べ車両が重いため、従来、高出力な油圧式パワーステアリングが採用されてきました。弊社で開発したSUV向け電動パワーステアリング(EPS)は、ハンドルとつながる入力軸と電動モータの出力を伝える軸を分離した2ピニオン式EPSにすることで、難しいとされていた「高出力」と「クイックなハンドリング」の両立を実現し、燃費の向上に貢献します。また、EPSのきめ細かな制御によって、車高が高いSUVであるにもかかわらず高級セダンに負けない

操舵フィーリングや、ドライバーの好みに応じたモード選択も可能になるとともに、車線逸脱防止支援システムによる予防安全にも貢献しています。さらに、機能安全国際規格であるISO26262に対応しており、車載する電気電子システムの安全基準を非常に高いレベルで達成しています。弊社では、人々の運転する楽しさと、快適性、安全性を高次元でバランスさせた新製品をさらに開発し、より良い社会に貢献していきます。

軽量ストラット式ショックアブソーバ

現在、環境問題などの深刻化を受け、自動車はより一層の軽量化が必要となっています。そういった状況の中、これまで鋼板のハイテン材(高張力鋼板)を使った薄肉化が主であった部品の軽量化は、異素材を適材適所で組み合わせるマルチマテリアル化へと移行しつつあります。各素材の長所を生かしながら、異素材を組み合わせることで各素材の短所を補い合うには、異素材間の安定した接合で付加価値を高めることが軽量化技術にとって重要です。

現在、CFRP(炭素繊維強化熱硬化性樹脂)の表面にクロムめっきを施した中空ピストンロッドに、射出成型したCFRTP(炭素繊維強化熱可塑性樹脂)製アウターを組み合わせたストラット構造のダンパを開発中です。鉄鋼に限らず、樹脂材料などを有効に活用することで、現量産品と比較して約40%の軽量化効果が見込まれます。

今後もダンパ軽量化を進め、燃費効率向上およびCO₂排出量低減による環境問題への貢献を目指します。



軽量ストラット式ショックアブソーバ

DS7 クロスバックへの セミアクティブサスペンション システム採用



電子制御
セミアクティブサスペンション
システム機器



システム採用車(DS7 Crossback)

PSA グループのラグジュアリーブランドである DS Automobiles、その頂点を担うDS7 クロスバックに、KYBのセミアクティブサスペンションシステムを採用頂き、欧州生産拠点の一つであるKAMS(スペイン)にて量産を開始しました。

本システムは、センサ、ECU、減衰力調整式ショックアブソーバからなり、人の身体に例えるなら、センサは感覚器官で、ショックアブソーバは筋肉と言えます。ECUは頭脳としての役割を果たし、どんな道でも狙った通り走り抜

けられる楽しさや安心感、心地よい空間といったうれしさを引き出すため、車体の揺れを抑制する最適な減衰力になるよう自動で調整しています。

この製品は、日本で開発した技術を海外拠点でシステム化しました。KYBが取りまとめたシステム全体としての品質が評価され、フラグシップモデルならではのユーザーエクスペリエンスの一翼を担う機会を得ました。

これからも、安らぎと走りの喜びが宿る技術を追求し、安心・安全・快適さを支える製品を提供し続けます。



特急ロマンスカーGSE

特急ロマンスカー GSE 向け フルアクティブサスペンション

小田急電鉄株式会社様の新型特急ロマンスカーGSE(70000形)に、フルアクティブサスペンションを採用頂きました。本品は、車体の揺れを電気信号に変換する加速度センサ、横揺れを打ち消す力を計算する制御装置と、電動油圧式アクチュエータで構成するシステム制御製品です。電気から油圧に変換したエネルギーを使って積極的に車体の振動制御を行うため、従来のパッシブやセミアクティブ方式のサスペンションに比べ車体の揺れを減らして、乗り心地を大幅に向上できます。アクチュエータは、パッシブダンパとセミアクティブダンパ

の機能も持ち合わせ、制御装置の信号で適切に切り替えられるように機能を集約しているため、システムの小型化ができるとともに車両搭載の省スペース化が実現できました。今後もお客さまの期待に応える安心で快適な乗り心地を提供できる製品を作り続けます。



フルアクティブサスペンション

可変減衰型オイルダンパ

免震構造とは、建物と地面の間に積層ゴムやダンパを設置することで、建物と地面が別々に動くようにし、地震による激しい揺れが建物へ直接伝わらないことを目的としています。近い将来の発生が危惧される南海トラフや相模トラフなどの巨大地震を想定し、建物の過大な動きを抑えるダンパを選定すると、発生頻度の高い中小地震では建物の動きが鈍くなり、地面の揺れが直接建物へ伝わります。そこで、巨大地震に加えて中小地震にも対応

可変減衰型オイルダンパ



できる免震用オイルダンパを清水建設株式会社様と共同で開発しました。中小地震では建物が滑らかに動き、巨大地震では過大な動きを抑えるよう、建物の動く量により適したダンパ性能に切り替える機能を付加しました。本ダンパは横浜市西区で施工中の「(仮称)MM21-54街区プロジェクト」に採用されており、切り替え機能を簡素化し、ダンパ本体に収めることで、機能付加による材料の増加を抑え、資源の削減を実現します。

オフィス家具転倒防止用 耐震ダンパユニット 「つっぱんだ」

近い将来に起こりうると言われている、南海トラフ地震などの大地震に備え、建物の耐震化は急速に普及しています。しかし、家具の固定は、「家具や壁に傷が付く」、「効果がないのでは」などの理由により、実際に対策している人は多くありません。そこでKYBのコア技術である制振技術を生かし、震度7の地震でも家具の転倒を防止することができ、家具や壁・天井に穴を開けることなく取り付けることができる、ダンパ(振動減衰器)を用いた転倒防止器具「つっぱんだ」を開発しました。

普段、「つっぱんだ」はばねによる反発力(小さい力)によって天井と家具の間で突っ張っています。いざ地震



が発生し、家具が転倒するような場合には、油圧による減衰力(大きい力)で家具の揺れを抑制しつつ、家具と天井の間をばねによる反発力で突っ張り続け、家具の転倒を防止します。一般財団法人建材試験センター*の「転倒防止器具の性能評価基準」に定められた試験を実施し、最高評価☆☆☆(3スター)の認定を取得することができました。

今後も人々の安全に貢献する製品の開発を続けます。

*一般財団法人建材試験センターでは東京消防庁の要請により「家具等の転倒防止器具の性能証明」事業を実施しています。

環境マネジメント

▶ 環境基本方針

スローガン

守ります みどりの地球
創ります 環境にやさしい製品

環境基本方針

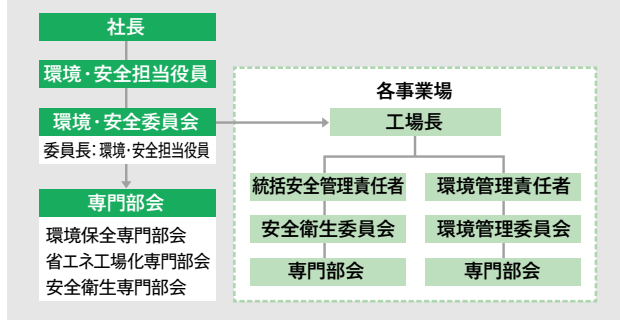
人と地球にやさしい製品づくりをするとともに、環境保全活動を経営に対する評価の重要な指標と位置付け、積極的に推進していきます。

1. 環境への負荷の少ない循環を基調とした生産活動及び企業活動を整備、構築する。
2. 全社的、長期的かつ持続的な活動、展開を図る。
3. 地域社会との調和を図り、良き企業市民として社会に貢献する。
4. 一人ひとりの役割分担を明確にし、全員参加による活動とする。

環境・安全管理体制

環境・安全担当役員をリーダーとする「環境・安全委員会」を設置し、環境面と安全面に関する取り組みについて、同時に意思統一を図っています。以下の体制で行っています。

K Y B の環境管理体制



担当役員からのごあいさつ

持続可能な社会に貢献できる企業を目指して

2017年度より、新中期方針がスタート致しました。環境保全への取り組みは世界的な課題となっており、企業にも持続可能な社会の推進が求められております。K Y B グループにおいても、これまでにない発想の転換による省エネ活動を推進するとともに、省エネ技術を取り入れた大型コンプレッサーや処理能力の高い廃水処理装置などを導入することで環境負荷の低減を図っています。また生産設備に使用される油や空気圧の漏れ改善、空調機器の温度管理などの地道な活動も、環境負荷目標の達成に向けて継続した取り組みを進めてまいります。

またモノづくりに関わるエネルギー低減と産業廃棄物の削減活動は、共に目標を達成することができませんでした。2018年度では、2017年度の実績を基に更なるエネルギーの見える化、廃棄物の減容化と再資源化を進め、ムダの顕在化と改善活動を展開してまいります。

最後に本報告書に関心を寄せて頂いたことに感謝申し上げますとともに、更なる内容の充実、向上を図っていく所存でございますので、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(CSR安全本部長 坪井 勝)



執行役員
坪井 勝

中期方針

環境・安全に関わる中期方針について

2014年度から中期方針フェーズ2を策定しており、環境安全の活動をスタートしています。

環境・安全中期方針(2014年～2016年)概要

1. エネルギー・廃棄物の最少化を目指した工場づくり
エネルギー原単位を2013年比で年1%削減
産業廃棄物の排出量原単位を2013年比で年3%削減
2. 労働災害ゼロ拠点づくりと拡大
従業員の安全意識向上と、重大な危険源を撲滅する

2017年度から中期方針フェーズ3を策定しており、環境・安全においても「決め事遵守・スピード・挑戦」をキーワードに新たな中期方針を策定し、活動をスタートさせています。

環境・安全中期方針(2017年～2019年)概要

1. エネルギー・廃棄物の最少化を目指した工場づくり
エネルギーの部分供給に向けた環境整備
エネルギーの見える化による諸施策の推進
廃棄物の減容化と再資源化の促進
2. 労災ゼロ・火災ゼロの拠点づくりと拡大
労働災害に対するリスク評価と対策の推進
火災ゼロ

▶ 環境保全目標

環境に関する会社方針に基づき生産拠点ごとに「環境管理活動計画」を策定し、目標達成に向け様々な活動に取り組みましたが、ベンチマークである2016年度と比較して、CO₂排出量、ゼロエミッション、金属屑等が目標を達成できませんでした。2018年度では更なるエネルギー使用量の削減、生産性の向上やリサイクルを促進していきます。

2017年度の活動結果

○：目標達成 ×：目標未達

テーマ	目標値	2017年度活動結果	評価	掲載ページ	2018年度の主な取り組み概要
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量	95,581 t-CO ₂ 以下	101,289 t-CO ₂	×	温暖化防止 LEDやLVDなどの高効率照明置換、油圧ユニットのインバーター化、工場内のエア消費量低減、空調負荷低減活動など 廃棄物低減 バイオ処理による塗料カス減容、廃処理装置の導入、汚泥やホワイトガソリンの有価物化など
省エネルギー	エネルギー使用量原単位	0.71 kL/百万円以下	0.70 kL/百万円	○	
再資源化、リサイクル率の向上	リサイクル率	91.3%以上	90.1%	○	
	ゼロエミッション	4.7%以下	4.7%	○	
廃棄物の減量	一般廃棄物	519 t 以下	504 t	○	
	一般廃棄物原単位	2.15 k g/百万円以下	2.09 k g/百万円	○	
	金属屑	17,751 t 以下	19,755 t	×	
	金属屑原単位	249 k g/百万円以下	251.8 k g/百万円	×	
	産業廃棄物	1,678 t 以下	3,539 t	×	
	産業廃棄物原単位	28.36 k g/百万円以下	28.5 k g/百万円	×	

(注)原単位は限界利益に基づき算出しています。
 エネルギーは、電気、燃料を原油換算し、合計値をエネルギー使用量としています。
 CO₂排出量およびエネルギー原単位の算出は弊社で定めた方法によります。

▶ 化学物質の管理

製品に対する環境規制への対応

生活圏の環境を守るために、REACH規則を始めとして、その他ELV指令やRoHS指令など様々な法令や規則等が制定されており、また徐々に厳しい規則内容に強化されています。強化されるREACH規則などに対応すべく、各製品における規制対象となる含有化学物質のデータベースを構築し、含有化学物質の調査、データの蓄積を進めています。このデータベースを活用することで、お客様から確認を依頼される使用禁止物質および使用制限物質の有無が迅速に確認できるとともに、REACH規則施行時から登録数が随時追加されていく高懸念物質の確認に対応できるようにしています。

引き続き、お客様と市場のニーズに適合した製品を提供できるよう活動を続けていきます。

化学物質へのリスクアセスメント

2015年度には、化学物質の健康障害に対するリスクアセスメントを国内の全拠点で実施しました。2016年度には、岐阜南工場、岐阜東工場にて、化学物質の爆発・火災に対するリスクアセスメントを実施しました。実施に当たり、化学物質を取り扱う全ての部署に、爆発・火災現象の基礎となる、燃焼の三要素(可燃物、酸素、着火源)、引火点、発

火点について説明しました。工場で取り扱う化学物質の中には、目に見えないガス状のものや、引火点が常温以下のものがあるため、化学物質による爆発・火災の予防には、着火源の排除が重要であることを、リスクアセスメントを通して、取扱者に理解頂くことに努めています。

PCB処理への対応

PCBを含有する変圧器などの電気機器は各事業所で厳重に保管しています。当社は専門の無害化処理会社と処理委託契約を結び、2012年度より処理を開始しました。

これまでにKYB-Y S株式会社、および同铸造センター、カヤバシステムマシナリー株式会社三重工場に保管していた変圧器の処理を完了しました。引き続き各年度計画に基づき、処理を進めて参ります。



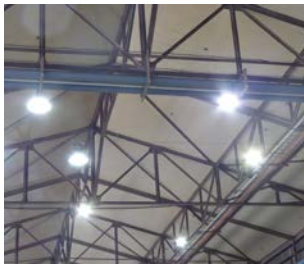
K S Mから搬出されるPCB廃棄物

環境負荷の低減活動

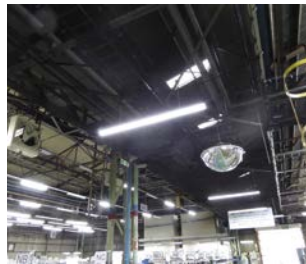
▶ 生産拠点活動

工場内照明のLED化

岐阜北工場では、10,000灯を超える照明器具を使用しています。2017年度は、高い所にある交換が難しい照明を優先させてLED化を進めました。工場内には手元照明を使っているところもありますので、LEDへの交換に合わせて照明の間引きを行いました。原油換算で年間150KL程度の省エネにつながっています。



高天井用LED



蛍光灯型LED

化学物質管理に関して

弊社では、化学物質データベースを構築し、化学物質リスクアセスメントを実施し、従業員の化学物質の危険有害性に対する意識を高め、化学物質に起因する事故の未然防止に努めてまいりました。2017年度、岐阜南工場、東工場では、化学物質リスクアセスメントの再実施をするとともに、化学物質の排出方法の調査を実施することで、化学物質の危険有害性と適正処理方法を再確認しました。また、並行して、データベースに登録しているSDSを全て更新し、適用法令、危険有害性に関して、最新の情報を把握しました。今後もこれらを定期的に変更し、化学物質に起因する事故、コンプライアンス違反の未然防止に努めていきたいと思っています。

エア送気圧低減によるコンプレッサー消費電力低減

岐阜東工場では、コンプレッサーの台数制御、インバータ機導入によりエア供給設備の省エネ化が図られています。さらに、エア使用量、各現場でのエア圧力を日常的に監視してきたことにより、コンプレッサーの送気圧の減圧による省エネ化が可能ということが分かりました。

しかし、コンプレッサーの送気圧を下げ過ぎてしまうとエア使用設備に不具合が生じ、生産に支障を来すことが懸念されましたので、コンプレッサーからの管路長が最も長い現場にて、エア圧力を事前に連続計測して許容範囲を見極めました。また、コンプレッサーの送気圧を2段階に分

けて減圧を実施するなど慎重に進めました。この結果、生産に支障を来すことなくコンプレッサーの送気圧を0.04MPa減圧し、コンプレッサーの消費電力を約3%低減させることができました。



遮熱塗装 施工前

岐阜東工場 ヤギによる除草

岐阜東工場の総敷地面積の約3割は緑地帯となっており、定期的に除草作業を実施し、工場の景観維持に努めています。2017年度には“ヤギによる除草”に取り組んでみました。ヤギは草を食べてふんをすることにより、除草だけでなく、緑地帯の土壌改善効果も期待できます。また、近隣団地の夏祭り際には、雑草を住民の方々に渡し、フェンス越しにヤギに食べさせ、ヤギとの触れ合いの場を設けました。近隣住民の方々、特に、子どもさん方に夏休みのいい思い出を提供できたと思います。さらに、ケーブルテレビ様にも取材いただき、TV放映もしていただくことができました。今後も“ヤギによる除草”を継続し、近隣住民の方々にも喜んでいただける活動としていきたいと思っています。



ケーブルテレビ様の取材



近隣団地の夏祭り



ソーラーによる電柵設置で逃走予防

新事務・厚生棟がCASBEEでAランクに

熊谷工場の事務棟と厚生棟は2017年8月に一つの新棟となり、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）において、Aランク（BEE=1.8）をいただきました。

総合的な評価としては、建物の高さやボリューム感を抑え、周辺景観に配慮した建物となり、昼光を利用したトップライト、ハイサイドライトなどを採用、また人感センサーによる照明制御も多数採用し、室内環境への配慮が盛り込まれております。建物の熱負荷を抑え、エネルギーの効率的な運用も実施。資源・マテリアル面では、躯体材料以外におけるリサイクル材の採用や部材の再利用可能性向上への取り組みも実施しております。

工事は2015年11月から2017年8月の期間行われましたが、大きな遅延や事故もなく、無事終了致しました。



小型貫流ボイラーの消費電力の削減

相模工場では地球温暖化と環境負荷低減に対応するため、小型貫流ボイラーの消費電力削減を図っております。2017年度は2台のボイラー更新を行いました。空調機及びメッキ処理槽等に蒸気を供給している小型貫流ボイラーの送風ファンは、これまでベルト駆動を使用していたため、スリップなどにより力の伝達ロスが多く発生していました。駆動方法を変え、直接ファン駆動の高効率型電動機を採用することにより、消費電力を約25%削減することができました。



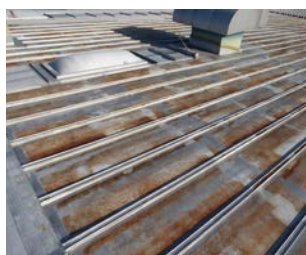
小型貫流ボイラー全体



高効率型電動機

工場の屋根に遮熱塗装

岐阜北工場は1968年に操業しました。古い建屋では築50年となるものがあり定期的な補修が必要です。工場の屋根は毎年範囲を決めて補修しています。2017年度は屋根の補修に合わせて遮熱塗装を実施しました。塗装前後では、工場内屋根裏温度差で約3.5℃と高い遮熱効果が得られました。これからも遮熱塗装を計画的に進め工場内の空調効果を高められるよう取り組んでまいります。



遮熱塗装 施工前



遮熱塗装 施工後



遮熱塗装 比較

生産用クーリングタワーのインバータ化

岐阜北工場には生産用クーリングタワーが多数あります。そのうちの1台は大型モータを使用しておりました。そこで、小型モータを複数台設置し、使用負荷に応じた運転方式に変更しました。さらにモータをインバータ制御することで、供給する水の圧力を一定に保つことができるようになりました。これにより休憩時間や夜間などの軽負荷時動力が減り約30%の省エネが実現できました。



クーリングタワーのインバータ化

お客様とともに

▶ お客様満足度向上の取り組み

品質基本方針

K Y Bでは、「品質経営」を企業活動の根幹に据えたことを受け、「品質の社会的責任に対する意識改革への取り組み、Bad News 1st 定着による風通しの良い企業風土づくり」を品質基本方針としました。何か異常が発生したら、何でも迅速に報告することで、問題解決に真摯に当たり、お客様・社会にご満足いただける品質のモノづくりやサービスをご提供すべく努力しています。



2018年度のバッジ

品質保証体制

「製品品質」と「サービスの質」とともに、「仕事のプロセスの質」を重要視したISO9001規格に準拠した品質保証体制を構築し運用しています。また、日々その質の向上に努めています。

製品を生産する工法や工程の開発を含め、開発設計段階での品質は製品の市場品質を決定付けます。さらに、生産現場での作業手順など決め事の完成度と運用の充実が、工程内不良を始めとしたモノづくりでの品質ロス削減につながります。

K Y Bでは「三段階評価」と呼ぶ製品・技術・工法などの開発・量産手法を運用し、製品の企画段階から量産出荷後の不具合改善や変更管理までを含めた製品ライフサイクル全体で高品質化を図る努力をしています。また、生産拠点では拠点長・工場長のリーダシップの下で品質向上諸施策が展開され、三段階評価の的確な運用を進めています。

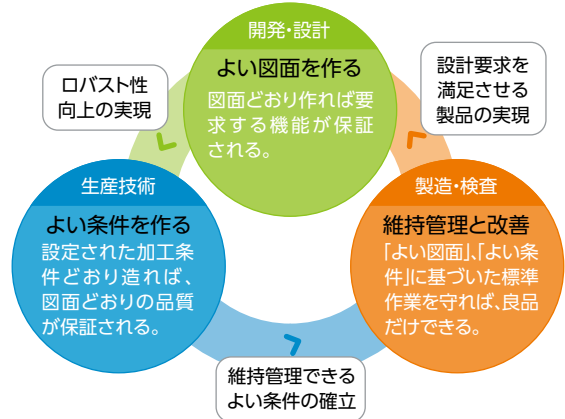
三段階評価による製品・技術開発と品質安全宣言

ステップ	三段階の狙い	品質保証ステップ
先行・モデル開発 DR0評価会	可能性の証明 (開発品質の説明・評価)	開発品質
受注開発 DR1評価会	量産性の証明 (開発品質の説明・評価)	立ち上がり品質
量産開発・生産準備 DR2評価会	応用性の証明・シリーズ化 (立ち上がり品質の実証・評価)	量産品質



品質安全宣言
本生産を開始する前に量産製品としての品質が確実に作り込めていることを明らかにする

K Y Bの目指す姿：品質未然防止のサイクル



TOPICS

改善専任チームの活動

弊社グループ各拠点では品質課題を方針に取り上げ継続的に改善活動を実施しています。拠点長がリーダーシップを発揮し、お客様・お取引先などステークホルダの皆様にご満足頂ける品質状況を早急に作り上げていきます。改善活動で一定の成果を上をあげられない拠点は、拠点長が品質改善専任チームを組織して、改善に割く時間や予算を確保し、スピードアップを図っています。



品質専任チーム活動の一コマ（インドネシア工場での事例）

サプライヤー表彰一覧表

日付	拠点名	名称	内容	お客様
2017.4	HC事業本部	クボタサプライヤー技能コンクール	溶接部門で金賞受賞	株式会社クボタ
2017.4	HC事業本部	オールクボタ技能競技会	サプライヤー26名中6位に入賞	株式会社クボタ
2017.5	KIMZ	ベストパフォーマンス賞	品質・納期でノートラブル達成	ジャトコ広州社
2017.5	KAC	サプライヤー・エクセレンスアワード2016	品質・納期で優れた結果を達成	Yamaha Mortor Manufacturing Corporation of America
2017.5	株式会社タカコ	優良事業場表彰	安全管理および災害防止を推進	社団法人 滋賀県防火保安協会
2017.7	株式会社タカコ	サプライヤー表彰	品質・納期でノートラブル達成	ポッシュグループ
2017.7	AC事業本部	感謝状受賞	紹介販売において協力、貢献	トヨタホーム株式会社
2017.7	AC事業本部	リージョナル品質賞	品質不良ゼロを達成	ジャトコ株式会社
2017.9	KYB-YS株式会社	品質優秀賞受賞	5年連続品質不具合ゼロを達成	愛知機会工業株式会社
2017.9	KYBT	サプライヤー・オリティティ・エクセレンスアワード2016	品質クレームゼロを達成	ゼネラルモーターズタイランド株式会社
2017.11	KIMZ	サプライヤー表彰	品質・コスト・納期で満点を獲得	Caterpillar Inc
2017.11	KMSB	優秀サプライヤー賞	品質・納期、価格協力に貢献	ホンリョン・ヤマハ・モーター株式会社

「オールクボタ技能競技会」への出場

岐阜南工場製造部第二製造課の奥村靖弘さんが、2017年4月に、株式会社クボタ様主催『クボタサプライヤー技能コンクール』の溶接部門にて、金賞を受賞しました。この競技会は株式会社クボタ様が、サプライヤーとともに技能を向上させ、より良い製品をお客様に提供するため開催している競技会です。この大会で好成績を得たことで、株式会社クボタ様社内で実施される『オールクボタ技能競技会』に、唯一のサプライヤー代表として出場しました。世界中の拠点から出場した株式会社クボタ様の技能者の方々を相手に、競技者26名中6位に入賞し、製造現場で培ってきた技能をアピールすることが実感できました。さらなる技能向上を目指すことで、KYBのブランド力向上に努めていきたいと思っております。



課題の溶接部分



受賞した奥村靖弘さん（中央）

お客様への情報発信

展示会はお客様から直接ご意見を伺える貴重なコミュニケーションの場であると考えています。今後も各国の展示会に参加してまいります。

出展した展示会（一部）

展示会	主な出展
販路拡大商談会	部品・加工品KMM(ベトナム)
第42回食肉産業展	水圧機械、水圧システム
AUTOMECH BRAZIL	自動車用部品
人とくるまのテクノロジー展	通信・映像端末
パリエアーショー	電動ブレーキ、電動アクチュエータ
バンコクオートサロン	KYBショックアブソーバ
群馬パーツショー	ラリー出走車両
第41回プラントメンテナンスショー	機械設備のオイル分析
ひがしひろしま環境フェア2017 (P22詳細記事)	タウンビーパー
全日本エコドライブチャンピオンシップ	2017年度チャンピオン車両
中国オートサロン	KYBショックアブソーバ製品展示
中国国際農業機械展	農業機械向け油圧製品
オートメカニカ上海	市販用ショックアブソーバ
第5回鉄道技術展2017	鉄道車両用ブレーキ、サスペンション等
第3回 IoT/M2M展【秋】	通信端末新製品
EXCON2017	コンクリートミキサ車等
東京オートサロン2018	自動車機器等

2018 インタビュー・講演会一覧表

インタビューや講演会は直接お客様やメディアとコミュニケーションを取れる場であると考えています。今後も機会を捉え、参加してまいります。

インタビュー・講演会

展示会	主な出展
芙蓉懇談会機関誌「エフ」	中島社長インタビュー
東京新聞社	チェアスキー用製品開発を取材
東京新聞社、サンケイスポーツ、NHK	鈴木猛史選手取材
KYB講演会	調達本部主催による取引先方針説明
原価企画講義	大学名誉教授による原価企画講義
第10回フルードパワー国際シンポジウム	ポスタープレゼンテーション
第47回取引先QCサークル大会	取引先133社が参加
KYB協力会社持株会	株主順位6位までの大株主が参加
第30回神奈川県品質管理セミナー	臼井特別相談役による品質経営講演
QCサークル神奈川地区大会	片山右京氏トークショー

お取引先様とともに

▶ パートナーシップの構築

調達基本方針

K Y Bは、企業のC S Rを果たし、社会に信頼される企業であり続けるよう活動しています。K Y Bがモノづくりを通じて継続的な事業発展を果たし、豊かな社会づくりに貢献していくために、お取引先様は商品づくりの大切なパートナーです。

以下にK Y Bの調達の基本的な考え方をご紹介致します。

調達の基本的な考え方

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① お取引先様と共存共栄を目指した調達活動 | ⑥ 納期対応 |
| ② 法令の遵守 | ⑦ 自然環境の保護 |
| ③ 品質第一 | ⑧ グローバル調達体制の構築 |
| ④ 安全衛生・人権・労働 | ⑨ 危機管理 |
| ⑤ 継続的原価低減活動 | ⑩ 機密情報管理 |
| | ⑪ 腐敗防止 |

詳しくはwebサイトをご覧ください。

<http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

2017年度調達方針説明会開催

K Y Bとお取引先様との連携強化のため、2017年度も「K Y B 調達方針説明会」(パレスホテル東京：東京都千代田区)を開催致しました。当日は、前年度を10社上回る224社のお取引先様をお迎えし、会社方針、調達方針および品質方針を説明致しました。またQ C Dにおいて効果を上げられた優良なお取引先様に対する表彰を行った後、お取引先様を囲んでの交流懇親会も併せて開催しました。



紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)への対応

アフリカのコンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域において、同地区から産出される鉱物4種(タンタル・タ

ングステン・すず・金)を紛争鉱物と定義し、採掘される鉱物資源を購入・使用することで武装勢力の資金源となり、紛争地域での人権侵害等に寄与していないことなどを確認することが求められています。

K Y Bグループ企業は、C S Rの視点や米国金融規制改革法(ドット・フランク法)の趣旨に基づいて会社としてのガイドラインを作成しており、お客様やお取引先様と連携し、不正に採掘された紛争鉱物の不使用に向けた取り組みを行っています。

取引先Q Cサークル大会開催による改善活動活性化

お取引先様の改善活動活性化を目的として、取引先Q Cサークル大会を毎年開催しています。2017年で47回目の大会となりました。今回は初めての東京開催で、133社173名のお取引先様にお集まり頂き、応募されました31社の中から優良な6社の改善事例発表を行いました。最優秀賞(金賞)には4年連続で碧海工機(株)様が選ばれました。

B C P (事業継続計画) 活動状況調査について

今後、発生が懸念されております三連動地震(東海・東南海・南海)に備え、調達方針説明会、および各工場の生産動向説明会においてB C P対応に関する説明をしました。また、お取引先様のB C P活動状況を把握することは重要であるとの考えから、昨年に引き続き、お取引先様に対し、全7分類(1.想定リスク対策、2.身の安全確保・緊急避難、3.災害対策本部、4.安否確認、5.物的被害確認、6.帰宅指示・帰宅困難者、7.復旧対策本部)100項目のアンケート調査を実施し、自己評価をして頂きました。自社の取り組み状況を把握して頂くとともに、実施できていない項目について、今後、計画的に活動して頂くようお願いしました。

VOICE

取引先Q Cサークル大会 金賞を受けて - 碧海工機株式会社様

今回の発表サークルは、出来高を高い水準で安定させることを目指し、P P H向上、原価低減をテーマに取り組みました。改善活動を進めていくとメンバー全員から改善案が次々に出てきたことが良かった点です。マシンタイム、ハンドタイムの大幅な短縮に成功。目標の達成ができ、また休出ゼロになり大きな成果を上げることができました。壁にぶち当たりそれを乗り越えることに達成感を得られ、日々の活動に力が入っていました。今後もメンバー全員のレベルアップに努め、新しいことに取り組み、お客様満足度をより向上させていきます。



発表者 井上 篤史 様 (真ん中)
発表アシスタント 田口 大介 様 (右)

地域社会とともに

社会支援活動

芝地区クリーンキャンペーン

本社のある芝地区においてクリーンキャンペーン（路上喫煙ゼロのまち！）が開催され、弊社有志社員が近隣企業からの参加者とともに路上清掃に取り組みました。厳しい寒さの中での活動となりましたが、参加者全員で力を合わせて街をきれいにできたことに達成感を覚えました。今後も社員参加による地域貢献を継続・推進してまいります。



クリーンアップ活動

赤い羽根共同募金運動への寄附

都庁において、東京都社会福祉大会が開催され、約500名の参列の下、社会福祉に関連する表彰状・感謝状が授与されました。この大会において、KYBは過去8年間の継続的な寄附に対して「東京都共同募金会会長表彰」を受賞しました。



東京都共同募金会会長表彰状

株主様向け工場見学会開催

昨年に引き続き、2018年3月、岐阜北工場にて株主様向け工場見学会を開催いたしました。当日は約30名の株主様にご参加頂き、工場見学、安全体感道場、展示エリア等をご覧頂きました。見学終了後、質疑応答等を通じて、株主様から貴重なご意見を多数頂きました。情報の積極的な開示は開かれた経営につながり、皆様への安心感にもつながるものと考えています。今後も見学会を継続開催し、株主の皆様と当社との双方向の対話を通じ、ご理解を深めて頂くよう努めてまいります。



工場見学会写真

「SC相模原」オフィシャルスポンサー

地域の活性化やスポーツの振興のため、相模工場のある神奈川県相模原市に本拠地を置くJ3リーグ所属のサッカーチーム「SC相模原」のオフィシャルスポンサーとなっています。2012年よりホーム公式戦1試合を「KYBスペシャルサポートマッチ」として開催し、チームを応援しています。

今後もKYB従業員一同、「SC相模原」を応援していくとともに、地域と一体となった活動を展開してまいります。



従業員の子もたちによるエスコートキッズ KYBスペシャルサポートマッチ試合前集合写真

近隣の総合医療機関との合同防災訓練

岐阜南工場は、近隣にある独立行政法人 地域医療機能推進機構 可児とうのう病院様と「災害活動応援協定」を締結しており、毎年『合同防災訓練』に参加しています。この訓練は、大規模地震発生を想定し、職員および地域住民、近隣企業が連携して、緊急時の対応を行うことを目的として可児とうのう病院様が実施しています。2017年も、岐阜南工場本部消防隊がこの訓練に参加し、イーバックチェア（階段けが人搬送避難車）による避難訓練、放水訓練を実施し、大規模地震発生時の連携体制を確認しました。このような活動を通じ、弊社の防災意識の向上を図るとともに、地域社会に貢献していきたいと考えています。

日本障害者スキー連盟アルペンスキーナショナルチームを継続支援

弊社は特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟アルペンスキーナショナルチームのオフィシャルスポンサーおよびオフィシャルサプライヤーとして活動しています。チーム合宿や各国で行われるワールドカップなどにおいて日本チームのチェアスキー用ショックアブソーバの技術サポートおよび製品開発を行っています。また特定強化選手である弊社社員の鈴木猛史選手は、各種レースへの参戦や練習に励むとともに、メディア対応や講演活動を積極的に行っています。KYBグループは、今後も選手と一体となって、より良い製品の改良に努めるとともに、社会貢献の一環として、スポーツ振興に積極的に取り組んでまいります。



KYB所属の鈴木選手



チェアスキー用ショックアブソーバ



チェアスキー

社会支援活動

第45回東京モーターショー2017に出展

第45回東京モーターショー2017が開催されました。「Feel the Passion, Feel the Future, Feel with KYB」をコンセプトに、モータースポーツにかける情熱(Passion)、時代に求められる先端技術の紹介(Future)、そして未来を担う学生や子供たちに日々の暮らしを支えているKYB製品を知って貰う(with KYB)をテーマに、楽しんでいただける展示内容としました。EPS協調制御システムの開発紹介、車両姿勢を制御するショックアブソーバなどの最新製品展示を始め、ホログラムによるKYB技術の紹介、EPS体験機などを展示しました。片山右京氏によるトークショーも実施し、多くのメディアから注目されました。前回と比べKYBブースへの来場者数も増加し、KYBブランドをPRすることができました。



KYBブース



片山右京氏によるトークショー

「ひがしひろしま環境フェア2017」に出展

東広島市主催の「ひがしひろしま環境フェア2017」へ緑のリサイクルに貢献する『タウンビーバーF』を出展しました。今年で3年目の出展です。剪定した枝をチップにする実演を行い、多くの来場者にご好評を頂き、2017年11月に東広島市へ納入されました。今後も、自然環境を守り、緑豊かな街を次世代に引き継いでいくためにも、様々な地域へタウンビーバーをPRしてまいります。



実演のようす①

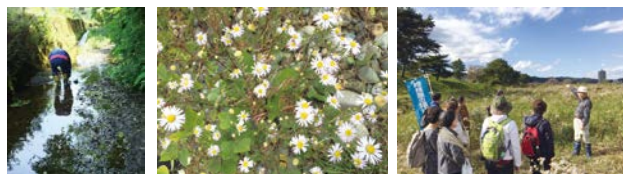


実演のようす②

相模原の環境をよくする会

「相模原の環境をよくする会」は、公害の未然防止と豊かな自然を守り快適な環境をつくるため、毎年四季を通じて「野鳥観察、夏休み環境教室、河川生物調査、自然観察」等を実施して環境の変化を監視しています。当会の会員として当社は自然保護活動に参加しており、2017年度は「河川生物調査」として市内河川状況の変化や河川生物等の種類

の調査参加と、「絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会」として育成地の河原状態維持活動に参加しました。



河川生物調査のようす 絶滅危惧種カワラノギクと河原の植物観察会

児童養護施設を訪問&植樹で緑化運動 KMSB(マレーシア)会

KMSB(マレーシア)が、地域貢献活動の一環として、ラマダン(断食)期間中に児童養護施設を訪問しました。普段、買い物をする機会が少ない子供たち43名とショッピングセンターへ出掛け、服などを買ったり、夜はレストランとともに夕食を楽しみました。



児童養護施設の子供たちとともに

また、地域の緑化推進活動の一環として、マンゴーやバナナなどの地元の果樹を工場フェンス外側に植樹しました。KMSBの従業員ボランティア37名が植樹に参加しました。



植樹のようす

踏切事故防止キャンペーン

岐阜南工場は、名古屋鉄道広見線の可児川駅に隣接し、正門入り口前が踏切という立地になっています。また、この踏切は、地元の可児市立土田小学校児童の通学路にもなっています。4月6日、同小学校の入学式・始業式に合わせて、「踏切事故をなくそう」を掲げ、「踏切事故防止キャンペーン」を実施しました。この活動では、岐阜南工場幹部従業員が、名古屋鉄道株式会社様と可児警察署様の協力の下、あいさつを行い、児童および従業員の踏切横断時の安全確保を呼び掛けました。この活動は可児市からも評価され、可児市広報紙に「子ども見守り活動」として掲載頂きました。来年以降もこの活動を継続して実施してまいります。



名古屋鉄道(株)職員様と可児警察署員様による啓蒙活動

私のあしながおじさんプロジェクトへの協賛

弊社は、企業メセナの一環として、可児市文化創造センターが主催する「私のあしながおじさんプロジェクト」に協賛しています。このプロジェクトは当センターで開催されるクラシックやジャズのコンサート、演劇、寄席などへ地域の子供たちを招待するものです。初めて触れた舞台芸術などに、喜びの手紙が多く寄せられています。



チケット贈呈式の様子



あしながおじさんのイラスト

可児市土田公民館主催による岐阜北工場見学会開催

「KYBの歴史について学ぶ」「地域とのつながり強化」をテーマに、土田公民館主催による岐阜北工場見学会が開催され25名が来社されました。冒頭に可児市職員より、KYBが戦時中に可児市で事業を始めた経緯が説明されました。工場見学後は活発な質疑応答が行われました。従業員が使用している食堂で昼食を取って頂いて見学会を終了しました。今後も地域とのつながりを大切にしていまいます。



会社概要説明風景



地元の小学校を支援 KMV(ベトナム)

KMV(ベトナム)が、創立15周年記念行事の一環として、工場の周辺にある小学校へロッカーや本棚、ノートや鉛筆などの学習用品を寄贈しました。子供たちから多くの喜びの声をもらい、小学校からは感謝の盾を頂きました。



学習用品を寄贈した小学生とともに

第11回産業フェアin可児2017 出展

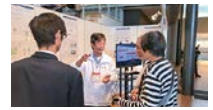
「第11回産業フェアin可児」が開催されました。台風接近による悪天候にもかかわらず16,000名余の方が来場し、賑わいました。このフェアは、出展企業が製品の紹介や商談・物販等を行うことで、地域経済を活性化させることを目的として開催されています。来場された方々にとっても地元企業を知る良い機会となっています。今後も産業フェアを通じ地域の方々との交流を深めてまいります。



KYB展示ブース I



KYB展示ブース II



KYB展示ブース様子

「可児市環境フェスタ」への参加

今年度も「第18回 可児市環境フェスタ」へ参加しました。このフェスタは、市民・事業者・行政の環境に関する活動を紹介し、環境への意識を高め、環境基本計画の具体化を図るため開催するもので、30に及ぶグループ・団体・事業所がそれぞれの「環境に対する企画内容」でブースを構え出展し、1,700名に及ぶ来場者と共に環境に対し考える体験をしました。「KYBグループは、人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、社会に貢献しています。」を掲げ、KYBの製品であるタウンピーパー(剪定枝の粉砕処理車)を会場へ持ち込み、トラック2.5t分の「桜・檜」の剪定枝をチップ化し、来場者の方々に配布しました。



KYBブース全景



剪定枝の粉砕作業

近隣企業とともに地元小学校を支援 KMS I(インド)

KMS I(インド)と近隣企業各社が共同で地元小学校への支援を行いました。児童一人ひとりに傘・雨具・水筒・弁当箱をプレゼントするとともに、記念植樹や医療診断のサポートを行いました。地元の子どもたちが安心して楽しく学校で学べるように支援し、地域に貢献することは、企業にとって大切な社会的責任です。今後も近隣企業とともに地域貢献活動を継続してまいります。



地元小学校の児童たち



医療診断の様子

従業員とともに

▶ 人財の活用と職場環境づくり

基本的な考え方

多様な人財を生かしてグループ力の最大化を図るため、「グローバル人材育成・グローバルプラットフォームの構築・多様性(ダイバーシティ)の推進」について重点的に取り組んでいます。

具体的には「プロフェッショナル人材の育成・グループ全体での価値観の共有・モノづくり人材の育成強化・ワークライフバランスの推進・こころと体の健康管理」などのテーマ検討を進め、働きやすい職場環境づくりを進めています。

「従業員意識調査」の実施

2018年1月、初の試みとして、全従業員を対象に、「従業員意識調査」を実施しました。

従業員が普段感じている、職場風土・労働環境・経営方針等についての「ホンネ」を調査するため、回答は無記名方式とし、外部機関にて集計・分析を行いました。

今後、従業員一人ひとりがこれまで以上に生き生きと働くことができる環境づくりに、これらのデータを活用し、全社を挙げて取り組んでまいります。

女性労働力の更なる活躍推進を目指した活動

多様な人財が個性を生かして活躍し、新たな価値や競争力を生み出し続ける会社となるための一環として、女性労働力の更なる活躍推進により誰もが活躍できるより働きやすい環境を目指すため、女性活躍推進を展開しています。その取り組みとして

- ①「能力開発・意識改革の研修」
- ②「働きやすい組織風土の醸成」
- ③「育児休職者への支援」
- ④「多様な働き方の支援」

の4項目を柱としています。

2017年度も、女性の意識改革を目的とした「女性向けキャリア研修」や、その上司の意識を変える「女性部下を持つ上司研修」の継続実施、早く帰ろうキャンペーン(カエルキャンペーン)などを実施しました。

今後は女性活躍推進のみならず、ダイバーシティの視点で幅広く推進展開していきます。

在宅勤務の推進

働き方改革の一環として、育児・介護を行う社員の仕事と家庭の両立支援に重点を置いた、「在宅勤務」の推進に取り組んでいます。まずは2017年11月より本社・支店11名の社員が1年間の試験的運用を開始しています。これは通勤にかかる時間や労力の削減・有効活用にもつながります。現在、週2回の実施を上限に、在宅勤務を行っています。今後、制度の本格導入に向けて、利用者の声を元に、より使いやすい制度への改良および利用対象者の拡大を進めてまいります。

メンタルヘルスセミナー

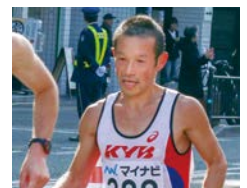
組織の要である部長職を対象に「部長格メンタルヘルスセミナー」を開催しました。メンタルヘルス対策は個々の組織から不調者を出さない、活力ある組織作りに寄与しています。セミナーでは「*ワーク・エンゲイジメントを高めた職場をつくるためには？」をテーマにグループディスカッションを行いました。

この研修を通じ、活力ある組織作り、元気なKYB従業員の増加に役立ててまいります。

*ワーク・エンゲイジメントとはやりがいや仕事に誇り、やりがいを持ち、生き生きとしている状態

KYB陸上部の活動

陸上部は、主に平日の夜や休日
に活動を行っています。部員の一人ひとりが、業務と両立しながら限られた時間の中で質を高めることにこだわりを持ち、日々練習やトレーニングに励んでいます。2017年9月、アスリートの国内頂上決戦である「第65回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会」に2名の選手が
出場し、健闘しました。また、2017年12月、「第71回福岡国際マラソン選手権大会」に3名の選手が
出場し、谷口選手が本大会連続出場記録を25年に更新しました。今後も、好成績が残せるよう練習に励み、他の部活動の活性化にもつなげてまいります。



福岡マラソン連続出場記録を25年に更新 谷口選手



全日本実業団陸上大会走り幅跳び 花井選手



全日本実業団陸上大会棒高跳び 築地選手

グローバル技術者研修

海外生産拠点のモノづくり力向上を目指して2006年からグローバル技術者研修を実施しています。本研修は、現地・現物で「対話方式の講義」「体感実習」「先進工場の見学」を柱に半月または1か月間行われます。基礎から応用までの技術を習得したのち、自拠点の改善案を作成し、帰国後はその実施に取り組んでもらいます。

2017年度は3コース（設備保全、めっき、K P S）について、11カ国15拠点から41名が受講しました。

今後も本研修を継続実施し、海外生産拠点のモノづくり力強化を推進します。



外観傷は発見が難しく、長年慢性の工程内不良となっていました。

この難題をカーボン紙への転写による特定技術を利用することにより解決しました。

転写がなくなるまで改善を続けた結果、諦めかけていた打痕傷は80%低減が進み、現在もゼロに向け活動を進めております。

K Y B グローバル生産会議

2017年度のグローバル生産・品質会議は、海外21拠点より53名が参加し、『安全・環境・品質・生産』に関わるテーマについて改善事例発表と熱心な質疑応答が行われました。

初日の改善発表会では、11拠点の中から、K Y B S E（スペイン）の「安全-5Sと構内物流の効率化」の発表テーマが金賞を受賞しました。

各生産拠点における『安全・環境・品質・生産』に関する情報と課題の共有化を図り、それぞれの機能レベルを向上させ、今後の発展に寄与してまいります。



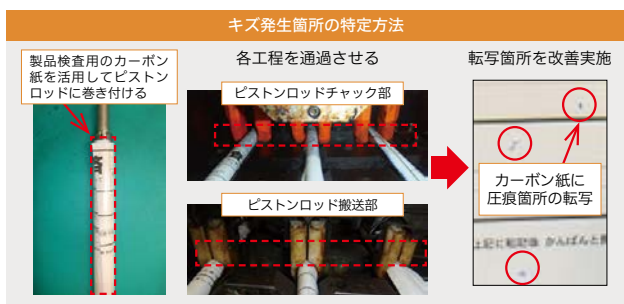
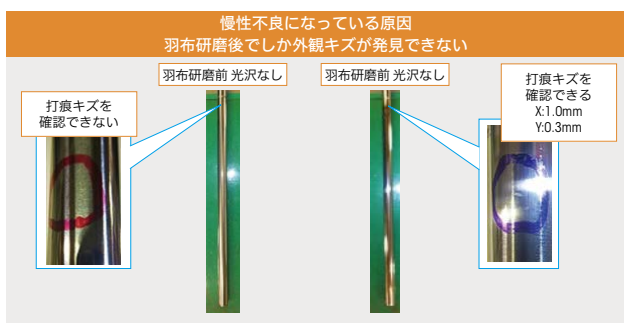
出席者全員で



改善事例発表で金賞を受賞したKYBSEのメンバーと中島社長（右）

簡単にできる打痕傷発生箇所の確認方法

ショックアブソーバの摺動部品であるピストンロッドは、品質要求が厳しく、微小な傷でも油漏れにつながります。そのために目視検査にて全数良否判別を行っています。



LT50活動(改善)事例

【改善前】ロッドネジ部のさび防止のためディッピング方式による防錆油塗布に垂れが発生し、油漏れに間違われるのを防ぐ為、製品と箱の拭き取り作業が発生。

【改善後】防錆油塗布工程でチャンバー内にて防錆油を霧状にし適量を吹き付けることで油の垂れを防止。合わせて適量化により防錆油の使用量低減、箱の掃除工数、拭き取りウエスの撤廃を実現した。



箱に油が垂れた状態



油塗布機



改善後の梱包状態

▶ 従業員コミュニケーション

第16回K Y B 全社スポーツ・文化交流大会開催

16回目となるK Y B 全社スポーツ・文化交流大会が、相模地区で開催されました。合計1,047名が一堂に会し、競技数全10種目を行い、大変盛り上がりしました。今回、特別イベントとして、K Y B がスポンサーとなっている「SC 相模原」とのフットサルエキシビジョンマッチや片山右京氏に参加頂きカートレースが行われました。スポーツ・文化の競技を通じて、K Y B グループの従業員が交流を深め仲間との絆を強めることができる、年に一度開催される貴重なイベントとなっています。



開会式の様子 (鏡開き)



特別イベント (片山右京氏とのカートレース)



特別イベント
(SC相模原とのフットサルエキシビジョンマッチ)

第10回K Y B ロボットコンテスト開催

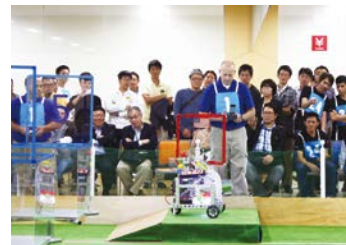
2017年10月21日に第10回「K Y B ロボットコンテスト」が相模工場で開催されました。K Y B グループから国内15チーム、海外9チームが競技にエントリーし、雨天にもかかわらずご来場頂いた大勢の観客の声援の中、白熱した試合が繰り広げられ第10回の記念大会にふさわしい盛り上がりを見せてくれました。

競技はトーナメント方式による玉入れ合戦。チームは、遠隔操作するロボットで自コートの数力所に置かれたバケツの中からボールを取り、相手コートに高さ違いで設置した幾つかのバスケットに投げ込み、その合計点を競いました。

K A C (アメリカ) が昨年12位のN h a n h N h a n h T V C (ベトナム) を退け、2年連続、通算4度目の優勝を果たしました。3位決定戦では、昨年準優勝のX O M O D O (インドネシア) が昨年10位のK M S B (マレーシア) に勝利し、海外勢の強さが光る大会になりました。アイデア賞は永華機械(台湾) が受賞したものの、日本勢も、技術賞をラポロボ(基盤技術研究所)、社長特別賞をカラクリシ

ステムマシナリー (K S M)、大会委員長特別賞をA C E S ☆ (A C 製品企画開発部 他) が受賞するなど健闘しました。

2018年度は岐阜東工場で開催する予定です。



優勝したK A Cチームの競技の様相

被災地支援のためのマルシェ開催

宮城県東京事務所のご支援を頂き、本社にて今回で3回目となる東日本大震災の復興支援マルシェ(物産即売会)を開催致しました。前回までとは異なり、東京地区以外のK Y B 各工場の従業員も参加し、全社的なイベントになりました。

東日本大震災から7年が経過しましたが、今後も震災の記憶を風化させることなく復興支援を推進してまいります。



復興支援マルシェの様子

かながわサイエンスサマーに参加(K Y B 史料館)

「かながわサイエンスサマー」は、子供たちに科学技術への興味を喚起し、学習意欲を高めてもらうための、神奈川県が推進する活動です。K Y B 史料館・広報・人事・I R の4部門合同で初参加し、2017年7~8月に合計3回開催しました。小学4~6年生の親子が対象で、パスカルの原理を理解したのち、注射器を使ったシヨベルカーフロント部の工作、ミニシヨベル試乗体験を実施しました。科学の楽しさモノづくりの面白さを体験した子供達や保護者からも好評でした。今後も活動を継続し、K Y B ブランド確立につなげていきたいと考えています。



ミニシヨベル試乗



説明風景



工作風景

安全で働きやすい職場づくり

労働安全衛生

ブラインドシナリオ方式でBCP訓練を実施

2017年6月29日、岐阜北工場で南海トラフ地震発生を想定したブラインドシナリオ方式によるBCP訓練を実施しました。刻一刻と変わる状況に、いかに迅速かつ的確に対応するかが問われました。訓練には社長他の役員も参加し、現地対策本部と本社危機対策総本部を、TV会議システムをつないでの状況報告訓練も並行して実施しました。訓練を通じて明らかになった多くの課題を、今後のBCP体制構築に生かしていきます。



岐阜北工場の様子



本社の様子

労働基準監督署主催

「挟まれ巻き込まれ防止セミナー」への協力

2017年度、弊社岐阜地区を管轄する多治見労働基準監督署管内において、作業者が機械に挟まれたり、巻き込まれる災害が多く発生しており、災害要因として作業手順書の未整備・作業教育の不備等が考えられたため、労働基準監督署により「安全作業マニュアル作成セミナー」が7月5日(水)に開催されました。このセミナーの実践版として、岐阜南工場において「挟まれ巻き込まれ防止セミナー」が8月8日(火)に開催され、多治見労働基準監督署管内企業25社31名の方々が参加されました。岐阜南工場の安全衛生の取り組みの説明、見学、安全体感道場にて、作業手順書や機械設備への安全対策の実例を目で見て、肌で感じて頂きました。岐阜南工場では、このセミナーをきっかけに、今後、近隣企業様との情報交換を活発に行い、地域一体となった安全衛生活動を推進していきたいと思っております。



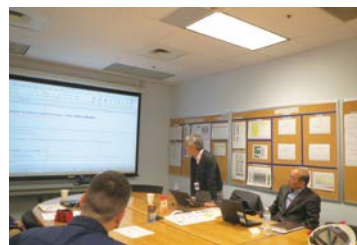
安全で働きやすい職場づくり

労働災害ゼロを目指して

2012年度から「安全はすべてに優先」をスローガンに掲げ、全社一丸となって活動を行ってまいりました。安全担当役員を委員長とした全社の「環境・安全委員会」を中心に、各事業所の「安全衛生委員会」が中核となって具体的な活動を行っております。2017年度は前年度国内で実施してきた諸対策「安全監査」「リスクアセスメント」「止める・呼ぶ・待つ」「繰り返し安全教育」などを海外生産拠点工場へも展開してまいりました。しかしながら2017年度においては2016年度と比較し、労災件数が増加してはいるものの、重篤な災害は発生しておりません。今後も労災ゼロに向け継続して活動を行ってまいります。

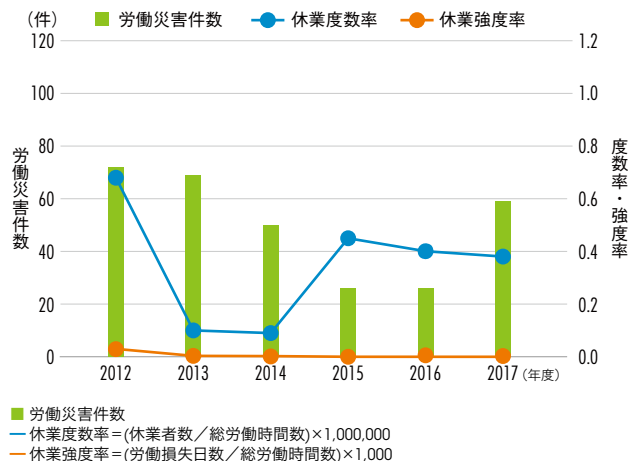


ブラジル工場 (KMB) での安全監査



アメリカ工場 (KAC) での安全監査

労働災害件数・度数率・強度率





経営マネジメント

▶ コーポレートガバナンス

基本的な考え方

当社は、持続的な成長と企業価値向上の実現を通してステークホルダーの期待に応えるとともに、社会に貢献するという企業の社会的責任を果たすため、取締役会を中心に迅速かつ効率的な経営体制の構築ならびに公正性かつ透明性の高い経営監督機能の確立を追求し、経営理念および以下の基本方針に基づき、コーポレートガバナンスの強化および充実に取り組むことを基本的な考え方としております。

基本方針

- 1.当社は、株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- 2.当社は、株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーとの適切な協働に努める。
- 3.当社は、法令に基づく開示はもとより、ステークホルダーにとって重要または有用な情報についても主体的に開示する。
- 4.当社の取締役会は、株主受託者責任および説明責任を認識し、持続的かつ安定的な成長および企業価値の向上ならびに収益力および資本効率の改善のために、その役割および責務を適切に果たす。
- 5.当社は、株主との建設的な対話を促進し、当社の経営方針などに対する理解を得るとともに、当社への意見を経営の改善に繋げるなど適切な対応に努める。

コーポレートガバナンス体制の概要

当社は会社法上の機関設計として、監査役会設置会社を採用しております。

取締役会

取締役会は、社外取締役2名を含む8名で構成し、法令、定款および取締役会規則、その他社内規程等に従い、経営に係る重要事項の意思決定や取締役の職務執行を監督しており、原則として毎月1回開催いたします。

執行役員会

執行役員会は、取締役会へ上程する案件の事前審議機関として、全社的な視点から経営に係る重要事項を審議します。

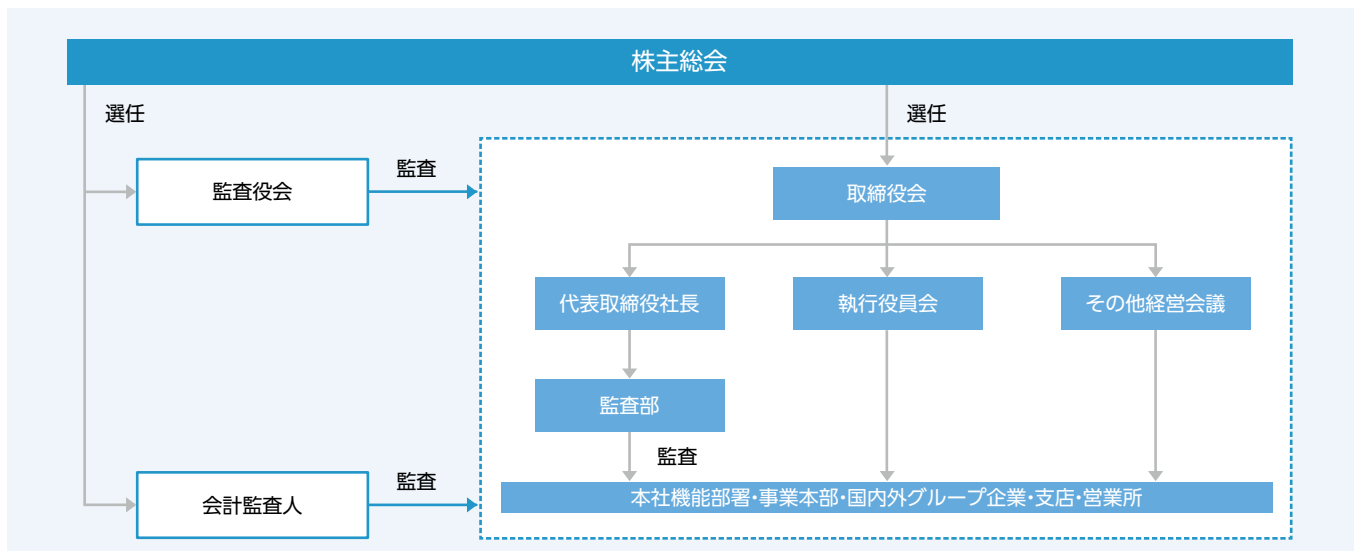
その他経営会議

国内および海外関係会社の経営執行状況を定期的に監督する「国内関係会社経営会議」「グローバル・ストラテジー・コミッティー」、社長が自ら工場現場に出向き、モノづくりの重要課題をフォローする「社長報告会」などの会議体を設置し、グループ経営監視体制の強化を図っております。

監査役会

監査役会は、常勤監査役4名で構成し、うち2名は社外監査役です。社外監査役による監査により、実効性のある経営監視が期待でき、有効なガバナンス体制がとられているものと判断しております。尚、社外監査役のうち1名を独立役員として登録しております。

コーポレートガバナンス体制



内部統制

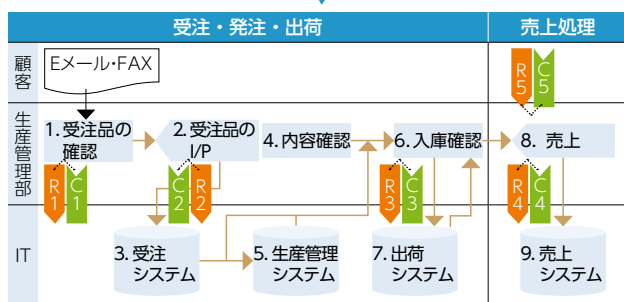
コーポレートガバナンスを有効に機能させる前提として、財務報告の信頼性を確保し、業務の有効性を高め、法令等遵守を促すために、内部統制システムの整備および内部統制機能の強化に注力することが必要不可欠であると考えています。具体的には、会社法に基づき内部統制システムの基本方針を取締役会で決議し、リスク管理体制整備、グループ管理体制整備、社内コンプライアンス体制整備等の諸施策を推進しています。また、金融商品取引法に基づき「財務報告に係る内部統制」の整備と運用の評価を法の定める手続きで行い、財務報告の信頼性を確保し、適正な情報開示を実践しています。

「見える化」による自己管理

2008年4月からの金融商品取引法による内部統制報告制度の適用により、財務諸表に影響を及ぼす業務について図式化し評価を行っています。業務の手続きやルールは規程類で定めていますが、さらに業務の流れを図式化することにより「見える化」し、業務の担当者以外でも分かるようにするとともにどこに業務上のリスクが存在しているかを明らかにし、そのリスクを低減するためのチェック機能が有効に働いているかを自己管理する仕組みを取り入れています。

業務内容の図式化（例）

業務	
No. 名称	詳細内容
1 受注品の確認	担当者が品番、納期、数量に間違いや不適切がないか確認
2 受注品インプット	受注品の確認・メール内容を見てインプットする
3 受注システム	受注システムでの処理
4 内容確認	担当者が基準日程の中身を確認
5 生産管理システム	生産管理システムでの処理
6 入庫確認	仕入先から部品が納品された後、入庫内容を確認する
7 出荷システム	出荷データを受け取る
8 売上	担当者が、画面にアクセスし、売上計上の処理を実施
9 売上システム	売上実績の集計



コンプライアンス

当社は「コンプライアンス」を「社会規範である法律・命令・規則の遵守」ととどまらず、企業活動に伴う「定款・社内規程・契約等の遵守」、さらに健全な企業活動を進めるための「企業倫理の遵守」と考えています。

1. 役員と従業員が企業活動を遂行する上で遵守しなければならないルールとして「企業行動指針」を整備し、法令遵守と企業倫理の確立に努めています。
2. 役員をはじめ、階層別研修・分野別研修等を通じて、コンプライアンス教育を実施しています。
3. 当社および全グループ企業を対象に、企業リスクを迅速に把握する制度として、即報規則や目安箱による経営層への情報伝達手段を整備しています。さらに、公益通報者保護法の施行を受け、内部通報制度として専用の窓口を設置しています。
4. 個人情報保護方針を定め、社内規程の整備を行い、個人情報保護委員会を設置しています。また、社外向けには、個人情報の問い合わせ窓口を設けています。
5. 当社および全グループ企業では、取引先様が反社会的勢力との関係を有している等判明した場合、契約を解除し得るように、反社会的勢力との関係を有していないことを書面で確認する等の取り組みを行っています。

TOPICS

企業行動指針を改定しました

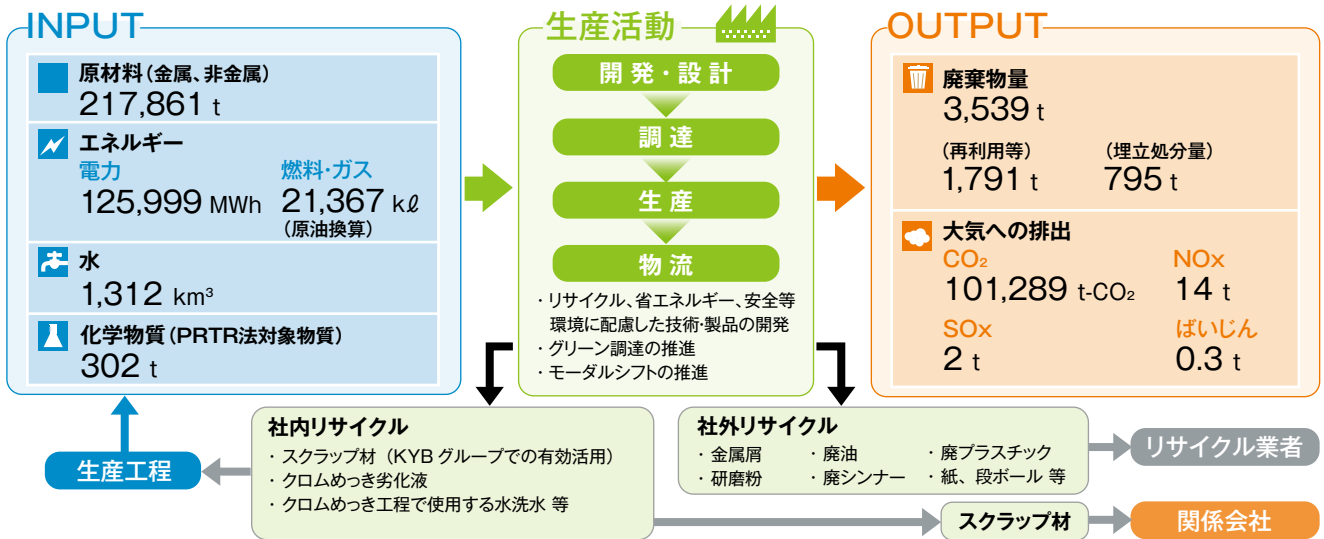
ここ数年、国際社会は人権尊重や環境保全など、より厳しい企業の社会的責任を要請しています。当社は、この国際社会の要請に応えるため、2017年11月、企業行動指針を大幅に改定しました。新しい企業行動指針では、当社グループの価値観を見直し、共有することで、企業価値をこれまで以上に高めることを目的としています。この目的達成のため、K Y Bグループで働く人が用いている14言語への多言語化にも取り組んでいます。

環境データ編

▶ 事業負荷に伴う環境への影響

KYBではエネルギーや水、化学物質など多様な資源を利用しています。限りある資源を効率良く生産するために排出される廃棄物やCO₂などの低減を図っています。

INPUT / OUTPUT



ISO 14001 認証取得

環境保全への取り組みを体系的に展開するため、国際規格であるISO14001環境マネジメントシステムの導入とその推進を図っています。更新審査においては2015年度版に順次移行します。

● 国内

KYB	認証登録年
岐阜南工場 (含む岐阜東工場、生産技術研究所、工機センター、KMS)	2000.2
相模工場(含む 基盤技術研究所、電子技術センター)	2000.12
熊谷工場	2000.12
岐阜北工場(含む KYB 金山)	2001.12
国内関係会社	認証登録年
KSM(三重工場)	2000.12
タカコ(滋賀工場)	2003.2
KYB-Y5	2004.4
KYB トロンデュール	2008.11

● 海外関係会社

社名	認証登録年	社名	認証登録年
KMT (台湾)	2001.6	TVC (ベトナム)	2007.1
KSS (スペイン)	2001.6	KMB (ブラジル)	2007.3
KYBSE (スペイン)	2001.12	KIMZ (中国)	2009.4
KAC (アメリカ)	2002.5	KMCZ (チェコ)	2009.8
KYBT (タイ)	2003.7	KLRC (中国)	2010.1
KST (タイ)	2003.8	KWT (中国)	2013.11
PT. KYB. I (インドネシア)	2004.11	TAC (アメリカ)	2013.2
KMSB (マレーシア)	2005.5	KMV (ベトナム)	2013.5
KSMSB (マレーシア)	2005.5	KAMS (スペイン)	2015.6

編集方針

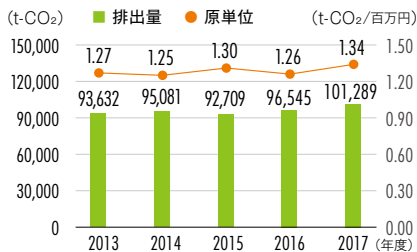
本報告書は、事業活動を行うに当たって、環境や社会に関わる情報をステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的に環境報告ガイドラインなどを参考に編集しています。2018年度版では、環境に配慮した新しい技術や省エネ活動、人財の活用、地域社会との連携などについて多くの具体的な活動事例をご紹介します。また、世界中に拠点を持つKYBグループとして、海外での取り組みも随所でご紹介しています。

今後とも、より分かりやすい報告書の編集を目指してまいりますので、ステークホルダーの皆様の忌憚のないご意見を賜れば幸いです。本レポートの内容は、当社のwebサイトにも掲載されていますので、ぜひご覧ください。

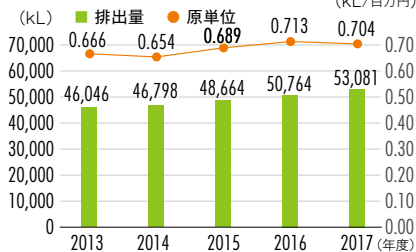
☞ <http://www.kyb.co.jp/company/csr.html>

環境関連データ

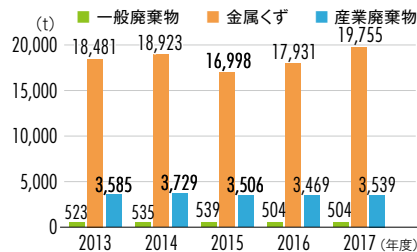
● CO₂排出量



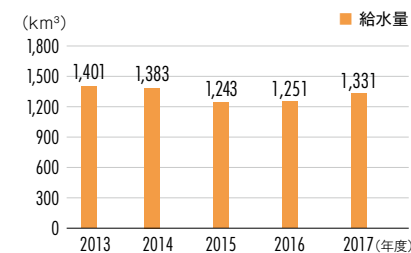
● エネルギー使用量



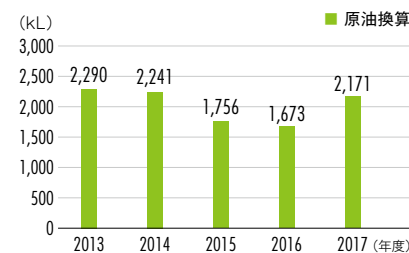
● 廃棄物排出量



● 水使用量・排出量



● 輸送に関するエネルギー量



環境会計

環境省が示す環境会計ガイドライン2005年版を参考にし、投資額と費用額に区分して集計しています。

単位:百万円

コスト分類		主な内容	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト	(1) -1 公害防止コスト	・ 大気汚染、水質汚濁防止活動 ・ 公害防止設備の保守・点検 ・ 大気、水質などの分析、測定	9.2	121.7
	(1) -2 地球環境保全コスト	・ エネルギー転換 ・ 省エネ活動	0.0	16.8
	(1) -3 資源循環コスト	・ 工場廃棄物の再資源化 ・ 産業廃棄物の減量活動	162.4	239.4
(2) 上・下流コスト			0.0	0.0
(3) 管理活動コスト		・ ISO14001の維持・管理 ・ 環境負荷監視	22.8	47.3
(4) 研究開発コスト		・ 環境に優しい製品開発 ・ 軽量化、有害化学物質の削減製品	0.0	54.4
(5) 社会活動コスト		・ 事業外の環境保護に伴う支援 ・ 工場周辺の緑化、景観維持	0.0	13.3
(6) 環境損傷対応コスト			0.0	0.0
(7) その他のコスト		・ 内部環境保全 ・ 福利厚生保全	0.0	76.3
合計額			194.4	569.3
総額			763.7	

環境保全コストの分類と定義 投資額 対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの
費用額 環境保全を目的とした財・サービスの消費によって発生する費用または損失

● 対象期間

2017年4月～2018年3月

(一部期間外の取り組みや報告も掲載しています)

● 対象範囲

KYB株式会社および国内外の関係会社を対象としています。
各種の環境データに関しては、特に注記のない場合はKYB株式会社(相模工場、熊谷工場、岐阜北工場、岐阜南工場、岐阜東工場)のデータを示しています。

● 発行時期

2018年6月(次回:2019年6月予定、前回:2017年6月)

● 参考にしたガイドライン

■ 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

● 将来の見通しに関する注意

本報告書には発行日時点における計画や見通し、経営計画・経営方針に基づいた将来予測を含んでいます。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報によって判断しており、諸条件の変化によって異なる可能性があります。ステークホルダーの皆様には、以上をご了承いただきますようお願い申し上げます。



Our Precision, Your Advantage

www.kyb.co.jp

お問い合わせ

KYB 株式会社

CSR安全本部 安全・環境部

〒105-6111

東京都港区浜松町二丁目4番1号世界貿易センタービル

TEL.03-3435-6465 FAX.03-3436-6759

用紙での配慮



森の町内会

この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



FSC® 認証紙の使用

適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しました。

印刷での配慮



グリーンプリンティング
環境に配慮した印刷工程と印刷資材を採用しています。



Non-VOCインキの使用
VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮したインキを使用しました。



水なし印刷
有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で印刷しました。